

2024

活動報告書

Create A Better Future Through Sports



S.C.P. JAPAN
Sport for Creating Pathways Japan

S.C.P. Japan | Sport for Creating Pathways Japan

WE PROMOTE DIVERSITY, EQUITY AND INCLUSION THROUGH EDUCATION, TRAINING, CAPACITY BUILDING AND INTERNATIONAL COOPERATION BY USING THE POWER OF SPORT, WITH THE AIM OF CREATING AN INCLUSIVE SOCIETY.

目次

- P.01 ご挨拶・活動分野
- P.02 VISON・MISSION・LOGO
- P.03 ピックアップ①
- P.04 ピックアップ②
- P.05 事業報告 | 運動プログラム事業
- P.06 事業報告 | 研修事業
- P.07 パートナー連携活動
- P.08 数字でみる活動成果
- P.09 財務報告
- P.10 2024年の活動を支えてくださった皆さま
- P.11 私たちの約束・法人情報
- P.12 メッセージ

ご挨拶

2024年は、S.C.P. Japanにとって大きな節目の年となりました。体制変更をはじめとする組織的な変化が続く中でも、日頃から支えてくださる皆さまのご理解とご協力のおかげで、安定した事業展開を進めることができました。心より感謝申し上げます。

今年は、新たに「障がいのある女の子・女性のためのサッカーチーム」を立ち上げ、多様な背景を持つ子どもたちや女の子が安心してスポーツに挑戦できる場づくりをさらに強化しました。また10月には、「女の子のためにスポーツを変える」という共通の想いを国内外の関係者と共有する大規模サミットにも携わり、大きな学びを得ることができました。こうした新たな挑戦の機会を得られたのは、これまで地道に積み上げてきた一つひとつの活動があったからこそです。設立からの5年間を振り返り、これまで支えてくださった皆さまへの感謝を改めて強く抱くとともに、その積み重ねが私たちの自信にもつながっています。

また、数字の面から見ても、今年は実施した研修の回数、出会うことのできた子どもや指導者の数ともに過去最多を記録しました。活動の規模を広げるだけでなく、内容の質を高めるための工夫や改善を重ねたことで、より多くの現場と「直接」つながる機会を生み出してきたことを実感しています。

S.C.P. Japanの強みは、「仕組みづくり」と「現場づくり」の両輪を持ち合わせていることにあります。制度や社会の枠組みへの働きかけと、現場で一人ひとりの子どもたちと向き合う実践。その両方を大切にしながら、2025年も引き続き、だれもが自分らしく安心して過ごせる社会の実現を目指して活動を続けてまいります。

最後に、こうした活動は、私たち単独では決して成し得ないものです。共に事業を推進してくださるパートナーの皆さま、現場で力を尽くしてくださるボランティアの皆さま、そして日頃より多様なかたちでご支援くださる皆さまのお力添えによって、ここまで歩みを進めることができました。活動を支えてくださる皆さまに、改めて心より感謝申し上げます。

今後とも、より一層のご理解、ご支援、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人S.C.P. Japan一同

活動分野 | ACTIVITY AREA



01. 障がい/あらゆる能力
(インクルージョン)



02. 女の子・女性
(エンパワーメント)



03. LGBTQ+/SOGIE
(性の多様性の理解促進)



04. 人権・子どもの権利
(セーフガーディング)



05. 国際協力・国際交流

S.C.P. Japanは、日本で活動する「開発と平和のためのスポーツ」の専門団体です。

だれもが自分らしく生きられるインクルーシブな社会の実現を目指し、こちらの5つの分野で、スポーツに関連する様々な活動を行っています。

Vision / Mission / Logo

Vision

一人ひとりが自分らしく歩んでいける未来をつくる

Mission

スポーツを活用し、人々と社会をエンパワーする。

Maximize the Power of Sport. Empower People.

01

私たちは、一人でも多くの人にスポーツを通じてポジティブな経験や繋がりをもたらし、一人ひとりのエンパワーメントとウェルビーイングに貢献します。また、スポーツを社会変革のツールとして活用し、公正でインクルーシブな社会の実現を目指します。

スポーツのあり方を変え、新たな文化を築く。

Change Sport. Build a New Culture.

02

私たちは、人々や社会にポジティブな変化をもたらす「スポーツの力」を信じています。しかし、スポーツの世界にはまだ多くの課題——差別、不平等、暴力、そして人権侵害——が今なお向き合うべき課題として存在しています。そのため、スポーツが誰に対してもポジティブな経験をもたらすものとなるよう、スポーツのあり方を変えていくことを重要なミッションの一つとしています。

協力して挑む。

Make a Difference Together.

03

私たちは様々な団体や個人と連携・協力し、チームで取り組むことでミッション1と2を加速(Drive)させ、最大限のインパクトを目指します。

New Logo

設立5年目をむかえ、この度団体ロゴをリニューアルしました。

<デザインの由来>

様々なスポーツが繋がり、人と人が繋がっていく。
そして、強いエネルギーを持ち、風を起こす風車のように絆の輪が次々と広がっていくことをイメージしました。



S.C.P. JAPAN
Sport for Creating Pathways Japan



ピックアップ①

障がいのある女の子・女性のためのサッカーチーム活動

2024年4月より、S.C.P. Japanの新たな取り組みとして、障がいのある女の子・女性のためのサッカーチーム活動をスタートしました。FIFA Foundation Community Programmeのサポートを受け、千葉県流山市、柏市周辺で定期的な練習やチームミーティングに加え、交流練習、試合観戦などの活動を行いました。最初は選手3人でスタートしたチーム活動でしたが、2024年12月現在10人の選手が活動に参加しています。



現役サッカー選手のスペシャルコーチ、齊藤夕真選手が練習に来てくれました。



10月6日「世界脳性まひの日」にシンボルカラーのグリーンをみんなで着用して練習しました！



第一回チームミーティング！自分のこと、仲間のことをたくさん知れたかな？



神奈川県「女子エンジョイ・サッカーデー」に参加。他県で活動する知的障がい者サッカー女子選手や、アンパティサッカー・CPサッカー・ソーシャルフットボールの女子選手と交流しました。



WEリーグで活躍するジェフユナイテッド市原・千葉レディース様にお招きいただき「サッカー交流会」に参加しました。



メンバーインタビュー

1. 「今年のチームの活動はどうでしたか？」
2. 「今年を振り返って、チームの活動の中で記憶に残っている出来事がありますか？」
3. 「目標はなんですか？」



Kokoro (14歳)

1. サッカーは、インサイドを使って、周りを見てパスができるようになりました！サッカーがとても好きになりました！
2. 神奈川に行って、サッカーの試合をしたことです。
3. インサイドキックをうまく蹴れるようにしたいです！

1. 最初は参加人数が少なかったですが、徐々に人数が増えてサッカー経験者や経験者じゃない人も楽しくサッカーができました。
2. FC RESIAのスペシャルコーチ ヴィアマテラス宮崎所属の齊藤夕真選手が来てくれて、パスやシュートを教えてもらったり、ゲームでは一緒にチームでプレーする事ができました。最後にはサインをしてもらい貴重な経験でした。
3. チームで試合に出場する事です。



Ami (21歳)



ピックアップ②

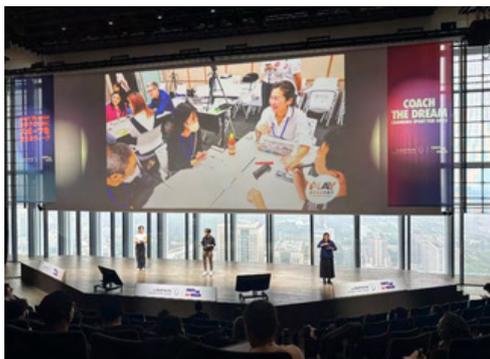
「女の子のためにスポーツを変えるウィーク - COACH THE DREAM -」への参加報告

2024年10月16日から20日にかけて、ナイキジャパングループ合同会社とローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団が開催する「女の子のためにスポーツを変えるウィーク - COACH THE DREAM -」に、S.C.P. Japanも参加しました。本イベントは、女の子とスポーツを取り巻く課題とそれらに対するアプローチを話し解決策を提示することを目的に開催され、国内外から約400名が参加しました。

初日には、「メンタルヘルスやトラウマへ配慮したスポーツコーチング」に関するマスターコーチ研修にS.C.P. Japanの井上と繁浪が参加しました。この研修では、事前のオンラインプログラムを踏まえ、身体を動かしながら実践的なスキルを学び、他の参加者と意見を交わしながら知見を深めました。

また、3日目の「東京サミット」では、S.C.P. Japanが企画運営を担う「スポーツ現場におけるジェンダー平等を目指す指導者のためのネットワーキングプログラム」の具体的な活動内容を紹介しました（詳しくはp.6）。また、同サミットでは、このプログラムの一環として制作された『女の子のスポーツ参加を促す指導者ガイド』も発表されました。本ガイドは、スポーツ現場からのニーズに応えるために制作され、女の子が安心して安全にスポーツに参加でき、スポーツからあらゆるものを得られるように、指導者が知っておくべき「知識」と、その知識をベースにどのような「意識」で指導にあたるのが重要なのかを7つのアプローチにまとめています。

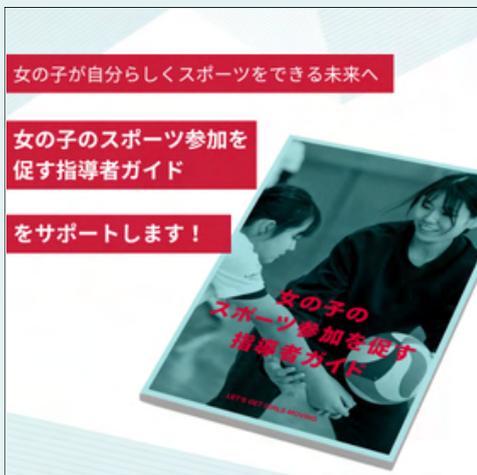
最終日には、S.C.P. Japanメンバー含むマスターコーチが、約50名のコーチたちに向けて「メンタルヘルスやトラウマへ配慮したコーチング」をテーマにした研修会を実施しました。この研修では、女の子が安心して楽しくスポーツに参加できる環境づくりを脳科学に基づいてテーマに、実践的なアプローチを共有しました。S.C.P. Japanは、スポーツが持つ力を信じ、ジェンダー平等や多様性の推進に寄与する活動を続けていきます。



サミットDay3：東京サミットでの発表



サミットDay5：COACH THE DREAM研修の様子



女の子のスポーツ参加を促す指導者ガイド

「女の子のスポーツ参加を促す指導者ガイド」の詳細は、下記のQRコードからご覧ください。▼



事業報告 | 運動プログラム事業

ハッピースポーツ教室

～幼児から小学生まで障がいの有無に関わらず 誰もが参加できるインクルーシブなスポーツ教室～

2021年から開始した、障害の有無、性別、経済レベル、人種等に関係なく誰でも参加できる「ハッピースポーツ教室」を2024年も月に1回定期的に実施しました。年齢（体格）の差や経験が違う子ども同士がどのようにしたら一緒に楽しむことができるか、その場で子どもたちと話し合いながら進行しています。今年は、サッカー、風船バレー、テニス、ピククルボールに挑戦しました。
※本事業は「子どもゆめ基金」の助成を受けて活動しています。



Fund Funスポーツ教室

～障がいのある女の子のためのスポーツ教室～

2022年7月より開始した「Find Fun スポーツ教室」を2024年度も引き続き開催しました。障がいのある女の子が安心して参加できる運動教室の実施。様々なスポーツに挑戦をし、好きなスポーツを見つけるきっかけとなることを目指しています。今年は、参加人数が増え、毎回10人程度の障がいのある女の子やその兄弟が参加してくれました。

※本事業はナイキの助成を受けて活動しています。



スポーツを通じてジェンダーや子どもの権利について学ぶ体験授業

昨年から継続し、小学校4～6年生の670名を対象に「性の多様性」や子どもの権利について知る・学ぶ授業を実施しました。今年は新たに、元サッカー選手でナイキが制作した絵本「みんなのいろいろ」にも携わった下山田志帆さんと、アテネオリンピック水泳日本代表選手の高橋友喜子さんにアスリート講師として参画いただきました。
※本事業はナイキの助成を受けて活動しています。



日本障がい者サッカー連盟（JIFF）との業務委託契約を継続し、イベントの企画・運営や学校向け教育プログラムの開発・講師育成・運営等を担当

JIFFが学校向けに行っている「JIFFインクルーシブ教育プログラム」の運営に協力し、2024年度は145件の授業を障がい者サッカー選手と共に届けました。他にも、授業を行う講師育成のための研修プログラムの開発や実施も行いました。また、「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2024」の企画・運営にも携わり、同イベント内で新設された「障がい者サッカーチャレンジひろば - ガールズコース -」では、S.C.P. Japanメンバーがメインコーチを務めました。



事業報告 | 研修事業



セーフガーディング研修～基礎研修に加え応用編を初開催、組織の仕組みづくりを後押し～

2024年は、これまで継続してきた基礎研修に加え、新たにセーフガーディング担当者向けの応用研修を初めて開催しました。応用研修では、現場対応の知識だけでなく、組織全体としてどのようにセーフガーディングの仕組みをつくるか、ポリシーや行動規範の策定方法、内部体制の整備など、より制度的な側面に焦点を当てました。

研修実施は年々増え続け、スポーツ界の中で少しずつ「セーフガーディング」という言葉と考え方の認知が広がってきていることを実感しています。参加者の中には、研修をきっかけに自団体のポリシー策定に着手したり、現場の改善に取り組み始めたりする声も聞かれ、研修の意義を再確認する一年となりました。

来年度は、基礎研修・応用研修の継続実施に加えて、だれもが気軽に学べるeラーニングコンテンツの開発にも取り組んでいく予定です。時間や場所にとらわれず、より多くの関係者が学びを深められる機会を広げることで、組織づくりと人づくりの両面から、子どもたちが安心してスポーツに関われる環境の実現を引き続き目指してまいります。



SFTC会員等事業支援プログラム「SFTアクション+（プラス）」I期の採択を受け、セーフガーディングの普及促進を目的とした海外視察を実施しました。 訪問先は、制度・実践の両面で先進的な取り組みを進めているイギリスと、法改正を機に新たな制度整備が進むスペイン。現地のスポーツ協会やクラブの関係者と直接意見交換を行い、制度構築の背景や現場での実践事例を学びました。この視察で得た学びは、国内におけるセーフガーディングの制度設計や、より実践的な研修開発に活かしていきます。



スポーツ現場におけるジェンダー平等を目指す指導者のためのネットワーキングプログラム

2024年、S.C.P. Japanはローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団とのパートナーシップのもと、「スポーツ現場におけるジェンダー平等を目指す指導者のためのネットワーキングプログラム」の企画・運営に引き続き携わりました。本プログラムは、「プレー・アカデミー with 大坂なおみ（※）」の一環として実施され、スポーツ現場におけるジェンダー課題や、ジェンダー・インクルーシブなコーチングに関心を持つ指導者たちがつながり、日々の実践や課題、工夫、悩みを共有し合える場をつくることを目的としています。



年間を通じて、参加者同士の対話を重ねる中で、多様な視点が交わり、新たな学びや気づきが生まれる瞬間に立ち会うことができました。今後もこうしたネットワーキングを通じて、ジェンダー平等の推進と、誰もが自分らしくスポーツに関われる現場づくりを推進していきます。

※「プレー・アカデミー with 大坂なおみ」は、ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団、ナイキと大坂なおみ選手が連携し、生涯を通じて恩恵があると証明されている遊びとスポーツを、現代社会に根付いているジェンダー格差を埋めるのに役に立つエンパワメントツールとして活用し、女の子の生活に変革をもたらすことを目的としています。



全国100名以上の指導者やスポーツリーダーがネットワークに参加



現場のコーチの声を反映した「女の子のスポーツ参加を促す指導者ガイド」が完成

パートナー連携活動



TSUTSUJI株式会社



石川県にて「スポーツ×子ども食堂」イベントを開催、地域と子どもをつなぐ場づくりを推進

2024年4月、S.C.P. Japanは石川県金沢市の「おおくわこども食堂」、地元企業TSUTSUJI株式会社と協働し、第4回目となる「スポーツ×子ども食堂」イベントを開催しました。S.C.P. Japanは2021年よりおおくわこども食堂と連携し、食事提供のみにとどまらず、スポーツを通じて子どもや保護者がつながりや体験を得られる機会づくりに取り組んできました。今回は新たにTSUTSUJI株式会社がパートナーとして加わり、「モグモグサッカーフェスタ～元気！元気！幸せを届ける食堂～」と題してイベントを実施。当日は年齢、性別、障がいの有無を問わず51名が参加。歩くサッカーと走るサッカーの2コートを用意し、プレー方法をその場で自由に選べる形式を取り入れることで、インクルーシブな環境づくりを意識しました。初めは緊張していた子どもたちや保護者も、体を動かす中で次第に笑顔が生まれ、互いに交流を深めていきました。運動後は、こども食堂スタッフとTSUTSUJI株式会社の皆さんが準備した食事を囲み、参加者の皆さんと和やかな時間を過ごしました。

GLOBALTREE

GLOBALTREE GROUP ハッピーライフケア株式会社・
ハッピーホールディングス株式会社

2021年よりアライアンスパートナーとして活動させていただいているGLOBALTREE GROUP ハッピーライフケア株式会社・ハッピーホールディングス株式会社様とは、2024年以下3つの取り組みで一緒させていただきました。年々連携は進化し、互いの強みを生かしたより強固なパートナーシップへと発展しています。



放課後等デイサービス
「サカフル」と連携し、
定期的なサッカー活動の実施



スタッフ向け「性の多様性」
「セーフガーディング」研修の実施

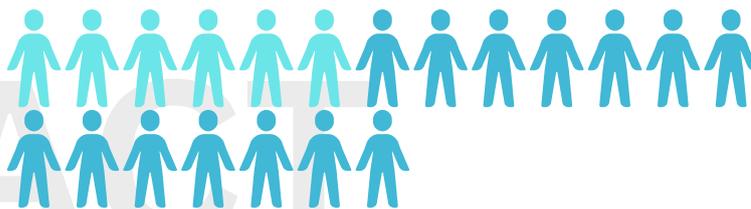


GLOBALTREE×S.C.P.Japan×TIAS
(筑波大学)の3者連携による
国際交流プログラムの実施

数字でみる活動成果

総受益者数（直接受益者数）

2000人以上



直接活動を届けた子ども・若者の数

847人



活動に参加をしてくれた障がいのある人の数（うち90%子ども）

222人



研修受講者数（スポーツ指導者、スポーツ/教育/福祉関係者など）

1115人

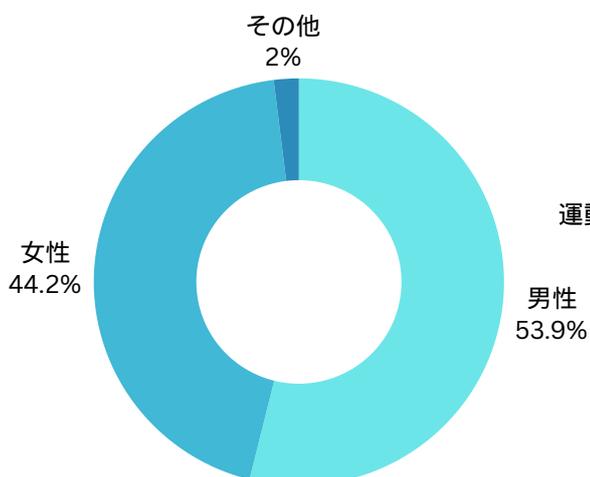


研修実施回数

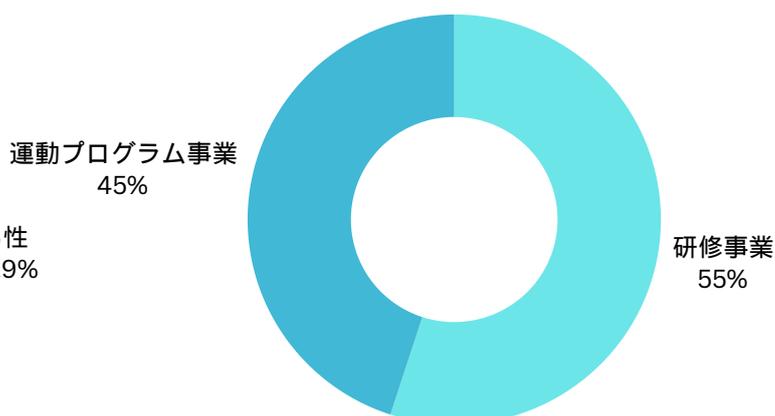
18回



受益者のジェンダー分布



事業別受益者数



財務報告

正味財産増減計算書（簡易版） 2024年1月1日～2024年12月31日

（単位：円）

科目	金額
(1)経常収益	
事業収益	21,381,773
受取補助金等	15,620,077
受取寄付金	4,050,584
その他の収入	241,816
経常収益計	41,294,250
(2)経常費用	
事業費	36,993,849
人件費	14,141,024
その他の経費	22,852,825
管理費	5,418,010
人件費	1,513,487
その他の経費	3,904,523
経常費用計	42,411,859
税引前当期一般正味財産増減額	▲1,117,609
法人税、住民税及び事業税	66,487
当期経常増減額	▲1,184,096
一般正味財産期首残高	39,366,421
一般正味財産期末残高	38,182,325
正味財産期末残高	38,182,325

貸借対照表（簡易版） 2024年12月31日現在

（単位：円）

科目	金額
I 資産の部	
1.流動資産	
現金及び預金	37,666,427
売掛金	1,772,490
貸倒引当金	-
前払費用	-
未収収益	-
未収入金	-
流動資産合計	39,438,917
2.固定資産	
(1)有形固定資産	
工具器具備品	-
車両運搬具	507,350
一括償却資産	151,790
預託金	12,470
固定資産合計	671,610
資産の部 合計	40,110,527

科目	金額
II 負債の部	
1.流動負債	
未払金	433,155
前受金	275,000
預り金	176,947
未払消費税	977,300
未払法人税等	65,800
流動負債合計	1,928,202
2.固定負債	
固定負債合計	-
負債の部 合計	1,928,202
III 正味財産の部	
1.指定正味財産	-
2.一般正味財産	38,182,325
正味財産の部 合計	38,182,325
負債及び正味財産合計	40,110,527

2024年の活動を支えてくださった皆さま

助成団体一覧



azbil みつばち倶楽部



FIFA Foundation
Community Programme



SFTC会員等事業支援プログラム
「SFTアクション+ (プラス)」



子どもゆめ基金



ナイキジャパン
グループ合同会社

企業パートナー一覧

ゴールドパートナー



TSUTSUJI株式会社

アライアンスパートナー



GLOBALTREE GROUP

ハッピーライフケア株式会社・ハッピーホールディングス株式会社

サポートパートナー



株式会社PR TIMES



株式会社モルテン

事業連携団体



日本障がい者サッカー連盟



ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団

パートナー制度・ボランティア参加について

S.C.P. Japanは「一人ひとりが自分らしく歩んでいける未来（共生社会）」の実現を目指し、企業・団体の皆さんとのパートナーシップを通じてさまざまな活動を行っています。また、ボランティアの方々の支えも活動の大きな力になっています。今後も仲間になってくださるパートナー・ボランティアの方を随時募集中です。寄付・支援及びパートナー制度・ボランティア参加については以下よりお気軽にお問い合わせください。

▶ MAIL : info@scpjapan.com

私たちの約束

私たちは「子どもの権利とスポーツの原則」の主旨に賛同し、弊団体が定めるセーフガーディングポリシーを遵守することを言言します。S.C.P. Japanのセーフガーディング規定に則り、年に1回以上、スタッフ向けセーフガーディング研修を実施することを定めています。

私たちは、活動を通じて、国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献することを目指しています。とくに、ゴール3・4・5・10・16に関わるプロジェクトを実施しています。



法人情報

法人名	一般社団法人S.C.P. Japan(日本語名) Sport for Creating Pathways Japan(英語名)
設立	2020年2月27日
所在地	千葉県柏市若柴178番地4柏の葉キャンパス148街区2ショップ&オフィス棟6F
WEBサイト	https://scpjapan.com
連絡先	info@scpjapan.com
公式SNS	 https://www.facebook.com/S.C.P.Japan1/  https://www.instagram.com/s.c.p._japan1/



S.C.P. JAPAN

Sport for Creating Pathways Japan

どんな一歩も前進だ。

あなた以外の誰かにとって、
それがとても小さなものだとしても
あなた自身が決めて、踏み出した一歩は
どんなことよりも価値がある。

誰もが同じスタートラインに立てない社会で
思い切って踏み出す一歩を、
わたしたちは思いっきり応援したい。
あなたが、自信に溢れ、自由を感じて進めるように。

そのために、S.C.P. Japanも進みつける。
古くなった常識、アンフェアなルール、いびつな構造…
爽やかな印象をともなうスポーツの世界には
まだまだ超えるべき壁がいくつもある。

その壁にぶつかって、乗り越えて、ときに壊しながら
いつか、まったく異なるフィールドをつくりたい。

誰もが、自信に溢れ、自由を感じて駆けられるような。
その一歩は社会にとって、大きな一歩のはずだから。



S.C.P. JAPAN

Sport for Creating Pathways Japan